

## 日本陸上競技連盟からのお知らせ

## 目 次

## ■活動報告

## 第72回理事会報告

2021年12月16日(木)に第72回理事会を、WEB会議システムを用いて開催いたしました。

## WAカOUNシル会議報告

第226回ワールドアスレティックス(世界陸連)カOUNシル会議が2021年11月30日~12月1日に開催され、カOUNシルメンバーとしてオンライン形式で出席いたしました。

## 2021年度 全国普及育成・指導者養成担当者会議報告

2021年12月17日(金)に2021年度全国普及育成・指導者養成担当者会議を、WEB会議システムを用いて開催いたしました。

## 施設用器具委員会全国会議報告

施設用器具委員会では、検定技術の向上を図るため全国検定員会議と全国区域技術役員会議を隔年で開催しています。2021年度は全国区域技術役員会議を、11月20日(土)~21日(日)にWEB会議システムを用いて実施いたしました。

## ■大会観戦ガイド

「第105回日本陸上競技選手権大会・20km競歩 兼 オレゴン2022 世界陸上競技選手権大会 日本代表選手選考競技会 兼 杭州2022アジア競技大会 日本代表選手選考競技会 第33回 U20 選抜競歩大会」

「第105回日本陸上競技選手権大会クロスカントリー競走 第37回U20日本陸上競技選手権大会クロスカントリー競走」

「第10回大阪マラソン・第77回びわ湖毎日マラソン統合大会 兼 ジャパンマラソンチャンピオンシップシリーズ 兼 オレゴン2022世界陸上競技選手権大会マラソン日本代表選手選考競技会 兼 杭州2022アジア競技大会マラソン日本代表選手選考競技会 兼 マラソングランドチャンピオンシップチャレンジ」

「第105回日本陸上競技選手権大会・室内競技 2022 日本室内陸上競技大阪大会」

「名古屋ウィメンズマラソン2022 兼 ジャパンマラソンチャンピオンシップシリーズ 兼 オレゴン2022世界陸上競技選手権大会マラソン日本代表選手選考競技会 兼 杭州2022アジア競技大会マラソン日本代表選手選考競技会 兼 マラソングランドチャンピオンシップチャレンジ」

## ■事務局からのお知らせ

ロードレース開催についてのガイダンス 一部改訂のお知らせ

国立競技場に再びトップアスリートが集結! セイコーゴールデングラプリ陸上2022東京

開催日程・会場について

第2回ライフスキルトレーニング レポート&受講生コメント

オリンピックメダリストに共通する特徴と成功するための行動

第29回世界競歩チーム選手権 東京五輪銀メダリスト池田・銅メダリスト山西など7名が日本代表に決定

## information

- ・日本陸連登録料の設定について

<https://www.jaaf.or.jp/about/fee/>



- ・シューズ規則/広告規定について

<https://www.jaaf.or.jp/about/resist/technical/>



- ・陸上競技場、長距離競走路の認定について

<https://www.jaaf.or.jp/about/resist/shisetsu/>



- ・代表選手派遣大会選考要項 2022年度

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/15231/>



- ・アンチドーピング/鉄剤注射の防止

<https://www.jaaf.or.jp/about/resist/medical/>



- ・【オレゴン世界選手権】エントリースタンダード

[https://www.jaaf.or.jp/files/upload/202108/17\\_171714.pdf](https://www.jaaf.or.jp/files/upload/202108/17_171714.pdf)



# 理事会報告

## 第72回理事会

日時：2021年12月16日（木）14時03分～16時15分

場所：JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階

日本陸上競技連盟会議室

開催方法：WEB会議システムを用いて開催

### 【議事内容】

理事総数30名中出席者27名にて、理事会の成立を鈴木事務局長が報告。尾縣会長が挨拶し、引き続き、議事進行に入る。

### 〈協議事項〉

1. 「ホクレン・ディスタンスチャレンジ」主催競技会への移行について  
風間専務理事より資料に基づき説明があり、今年度2021年度まで本連盟は強化委員会運営協力として関わってきたホクレン・ディスタンスチャレンジについて、2022年度大会より主催競技会とすることが原案通り、承認された。

### 2. 2022年度主要競技会日程

鈴木事務局長より資料に基づき説明があり、2022年度主要競技会日程が承認された。（本連盟WEBサイト<https://www.jaaf.or.jp/files/upload/202109/2022calendar.pdf> 参照）

※2022年度主要競技会日程は、2022年3月に開催する本連盟理事会において最終承認されるため、資料は案のままとする。

### 3. 2023年度および2024年度の日本陸上競技選手権大会の開催地の方向性について

風間専務理事より資料に基づき説明があり、2023年度および2024年度の日本陸上競技選手権大会（本大会）の開催地は、公募ではなく、2021年度よりU20日本陸上競技選手権大会との併催とし選手数だけで1,500名と大会規模が大きくなったことに伴い、宿泊輸送、競技場利用、また興行的な観点などから本連盟調整により決定することが原案通り、承認された。

### 4. オレゴン2022世界陸上競技選手権大会

トラック&フィールド種目日本代表選手選考要項

### 5. オレゴン2022世界陸上競技選手権大会

競歩日本代表選手選考要項の改定

### 6. 杭州2022アジア競技大会

トラック&フィールド種目日本代表選手選考方針

### 7. 杭州2022アジア競技大会 マラソン日本代表選手選考要項

### 8. 杭州2022アジア競技大会 競歩日本代表選手選考要項

山崎強化委員長より資料に基づき「オレゴン2022世界陸上競技選手権大会トラック&フィールド種目日本代表選手選考要項」、「オレゴン2022世界陸上競技選手権大会競歩日本代表選手選考要項の改定」、「杭州2022アジア競技大会トラック&フィールド種目日本代表選手選考方針」、「杭州2022アジア競技大会マラソン日本代表選手選考要項」、「杭州2022アジア競技大会競歩日本代表選手選考要項」について説明があり、原案通り承認された。（本連盟WEBサイト<https://www.jaaf.or.jp/news/article/15231/>参照）

### 9. 2022年日本陸上競技選手権大会参加資格

山崎強化委員長より資料に基づき説明があり、2022年度「第106回日本陸上競技選手権大会」、「第106回日本陸上競技選手権大会・10000m」、「第106回日本陸上競技選手権大会・混成競技」の参加資格が原案通り承認された。「第106回日本陸上競技選手権大会参加資格」

### ▽申込資格

2022年度本連盟登録者で、下記の（1）から（3）のいずれかに該当し日本国籍を有する競技者（日本で生まれ育った外国籍競技者を含む）。但し、男女の5000m、3000mSCでは日本選手権申込資格記録を満了し、参加申込のあった外国籍競技者のうち、出場資格記録の上位2名までをオープン参加として出場を認める。また、外国籍競技者として参加する2名はターゲットナンバーには含めないものとする。

- （1）第105回日本陸上競技選手権大会の優勝者（但し、その種目に限る）
- （2）第105回日本陸上競技選手権大会クロスカントリー競走で下記の成績を取った競技者

- 1）女子5000m シニア女子8kmの優勝者
- ※但し、本項による申込みは、女子5000m又は女子10000mのどちらか1種目に限る。

- （3）申込資格記録を突破した競技者

### ▽出場の優先順位

申込資格を満了した競技者から、下記を優先順位として出場者を決定する。

- （1）第105回日本陸上競技選手権大会の優勝者（但し、その種目に限る）
- （2）第105回日本陸上競技選手権大会クロスカントリー競走で下記の成績を取った競技者

- 1）女子5000m シニア女子8kmの優勝者
- ※但し、本項による申込みは、女子5000m又は女子10000mのどちらか1種目に限る。

- （3）申込資格記録を突破した地域選手権3位以内の競技者の中で、当該種目申込資格記録上位3名の競技者
- （4）申込資格記録を突破した資格記録上位の競技者

「第106回日本陸上競技選手権大会・10000m参加資格」

### ▽申込資格

2022年度本連盟登録者で、下記の（1）から（3）のいずれかに該当し日本国籍を有する競技者（日本で生まれ育った外国籍競技者を含む）。但し、日本選手権申込資格記録を満了し、参加申込のあった外国籍競技者のうち、出場資格記録の上位2名までをオープン参加として出場を認める。また、外国籍競技者として参加する2名はターゲットナンバーには含めないものとする。

- （1）第105回日本陸上競技選手権大会の男女10000m優勝者
- （2）第105回日本陸上競技選手権大会クロスカントリー競走で下記の成績を取った競技者

- 1）男子10000m シニア男子10kmの優勝者
- 2）女子10000m シニア女子8kmの優勝者
- ※但し、本項による申込みは、女子5000m又は女子10000mのどちらか1種目に限る。

- （3）申込資格記録を突破した競技者

### ▽出場の優先順位

申込資格を満了した競技者から、下記を優先順位として出場者を決定する。

- （1）第105回日本陸上競技選手権大会の男女10000m優勝者
- （2）第105回日本陸上競技選手権大会クロスカントリー競走で下記の成績を取った競技者

- 1）男子10000m シニア男子10kmの優勝者
- 2）女子10000m シニア女子8kmの優勝者
- ※但し、シニア女子8kmの優勝者による申込みは、女子5000m又は女子10000mのどちらか1種目に限る。

- （3）申込資格記録を突破した地域選手権3位以内の競技者の中で、当該種目申込資格記録上位3名の競技者
- （4）申込資格記録を突破した資格記録上位の競技者

「第106回日本陸上競技選手権大会・混成競技参加資格」

### ▽申込資格

2022年度本連盟登録競技者で、下記の（1）から（2）のいずれかに該当し、日本国籍を有する競技者（日本で生まれ育った外国籍を有する競技者を含む）。

- （1）第105回日本陸上競技選手権大会・混成競技優勝者

- （2）申込資格記録を突破した競技者

### ▽出場の優先順位

申込資格を満了した競技者から、下記を優先順位として出場者を決定する。

- （1）第105回日本陸上競技選手権大会・混成競技の優勝者
- （2）申込資格記録を突破した地域選手権3位以内の競技者の中で、当該種目申込資格記録上位3名の競技者

- （3）申込資格記録を突破した資格記録上位の競技者
- ※いずれの競技会においても各種目の出場可能な人数をターゲットナンバーとして設定する。申込者数で各種目の出場可能な人数を超えることが生じた場合は、上記の申込資格を有する競技者であっても参加を制限されることがある。

※申込資格記録、申込資格記録有効期間の詳細は、2022年1月発表予定。  
※その他詳細は追って本連盟WEBサイトで公表する各競技会の大会要項参照。

### 10. 2021年度第2期強化競技者規程の制定

山崎強化委員長より資料に基づき説明があり、2022年3月31日までに指定期間とする「2021年度第2期強化競技者規程」の制定が原案通り承認された。

### 11. 公認陸上競技場および長距離競走路ならびに競歩路規程の改定

風間専務理事、高木施設器具委員長より資料に基づき説明があり、「公認陸上競技場および長距離競走路ならびに競歩路規程」の改定が原案通り承認された。

※承認された改定箇所は下記の通り。

### ▽第3条 公認競技場は下記の5種類とする。

インフィールド	第4種	第5種
	天然芝・投てき実施可能な人工芝・土質とする	天然芝・投てき実施可能な人工芝・人工芝・土質とする

### ▽第3条に第2項として下記を追記。

2. 前項にかかわらず、オリンピック競技大会を開催した陸上競技場は、補助競技場を欠く場合であっても、第1種公認陸上競技場とすることができる。

### 12. 登録会員規程の改定

風間専務理事より資料に基づき説明があり、2022年度から、大学生登録の加盟団体として、卒業した中学校の所在地（都道府県）の陸上競技協会にも登録できるようになる「登録会員規程」の改定が原案通り承認された。  
※承認された改定箇所は\_\_\_\_\_部分。

大学生登録：公益社団法人日本学生陸上競技連合（以下日本学連という）を通じておこなう登録。大学生登録会員は、以下の中から選択する一個の加盟団体に登録する。

- （1）卒業した中学校、卒業した義務教育学校又は前期課程修了時まで在籍した中等教育学校の所在地がある都道府県の加盟団体
- （2）卒業した高等学校、卒業した中等教育学校又は3年次まで在籍した高等専門学校の所在地がある都道府県の加盟団体
- （3）在籍している学部・学科等の所在地がある都道府県の加盟団体
- （4）居住地がある都道府県の加盟団体

# 第226回ワールドアスレティックス (WA) カウンシル会議報告

名誉会長 横川 浩

第226回ワールドアスレティックス（世界陸連）カウンシル会議が2021年11月30日～12月1日に開催され、カウンシルメンバーとしてオンライン形式で出席した。概要は以下の通りである。

## 1. ロシア問題

組織的なドーピング違反で2015年11月から資格停止処分を受けているロシア陸連について、ルネ・アンデルセン調査団長から報告と提案が行われた。ロシア陸連は、資格回復に向けて課せられたマイルストーンに基づいて、改善策を推進しており、着実に前進しているが、修正すべき点も残っていると、処分の延長を決定した。ドーピング違反をしていないと認められた選手は、ANA選手（中立の個人資格）として、競技会への参加資格が与えられる。2021年の主要国際競技会（オリンピック、WA主催イベント等）では出場上限10名が設けられていたが、2022年については、対象となる6国際大会（世界選手権オレゴン大会、世界チーム競歩選手権大会、世界室内選手権、世界ハーフマラソン選手権、ヨーロッパ選手権、ヨーロッパクロスカントリー選手権）で合計20選手となる。ANA要件に違反があった場合には、20選手から減らされる。尚、U20世界選手権も含む、上記以外の国際競技会については、ANAステータスが認められている場合には、出場選手数に上限は課さない。

## 2. コンペティション

- 2024年世界室内陸上競技選手権大会が英国・グラスゴーで開催される事が決定。開催時期は2024年3月予定。
- 2024年U20世界陸上競技選手権大会がペルー・リマで開催される事が決定。ペルーでのWA主催大会の開催は初。
- 2022年U20世界陸上競技選手権大会はコロンビア・カリで開催されるが、大会期日を当初の予定より1日早め、8月1日～6日に変更する。タイムテーブル、参加要項が承認された。
- 2023年世界リレーが第6回大会として、中国・広州で開催されるが、日程が5月13日～14日で決定した。同大会は世界選手権ブダベスト大会への参加取得大会となる。
- 2023年世界ロードランニング選手権大会はラトビア・リーガで初開催されるが、日程が9月30日～10月1日に決定した。同大会は世界ハーフマラソン選手権大会を引き継ぐ形で開催され、ハーフマラソンに加えて、5km選手権が実施され、エリートランナーと市民ランナーが集う、グローバルなロードランニングの祭典を目指す。
- 世界選手権オレゴン大会の準備は順調に進んでおり、素晴らしい大会になる事が期待される。競技場の特性により、スペースが限られているため、選手・コーチを含めた全てのステークホルダーの理解を得る事が重要であり、情報共有の徹底が図られる。同大会で実施される4×400m混合リレーで変更出来る選手数は1名のみとする。大会初日に予選と決勝が行われる関係で、選手層の厚い大国の優位性を防ぎ、参加国の公平性を担保する目的で今回限りの措置となる。
- WA主催大会（WASイベント）に於ける賞金制度の見直

しが行われ、世界選手権の賞金総額を約100万ドル増やし、全種目トップ8の各賞金額が増えた。世界チーム競歩選手権大会は主にチームイベントであるので、個人賞金は廃止し、団体のみに賞金が支給される。

## 3. WA規則・規定の改定

- 大会立候補に関する規則（C6.1）を現状に則した形に改定し、緊急時に柔軟に対応出来る内容にした。
- WAポスト獲得のための立候補に関する規則（B3.4）を見直し、ガバナンスのフレームワークの中で、現実的な運用が出来る形に改定した。選挙管理パネルの権限や立候補者の事前講習受講などが明確化されている。一つの国から複数のカウンシルメンバーを選出する事は出来ないが、アスリート委員会を代表してカウンシルメンバーになる場合はこの限りではない。
- DSD（性分化疾患）を持つアスリートのエリジビリティに関する規定（C3.6）の中で、運用手順に関する一部分を改定した。
- ワールドアスレティックスシリーズの規定第16.9.1条（室内選手権で適用される特別なテクニカルルール）が改定され、走幅跳、三段跳、砲丸投の試技が従来の方法に戻り、3回目の試技後、トップ8が3回の追加試技を行う。
- シユーズに関する規則（規則第5条）の見直し、メーカーも含めた特別検討部会が協議されており、新たな規則は2022年1月1日から施行となる。

## 4. ワールドランニングコンペティション

“ワールドランニングコンペティション”の2023年1月からの正式導入を目指し、2022年を試験的導入期間とする。ワールドランニングコンペティションと認定されるには、WA規則、規定に準拠しなければならない。ワールドランニングコンペティションで出した記録のみが、WAランニング、世界大会の参加資格記録、世界記録など、WAの公式記録の対象になる。大会後には記録を報告する義務があり、ワールドランニングコンペティションとして認められるには、毎年事前申請が必要で、申請料が課せられる。

## 5. パリオリンピック

- パリオリンピックの陸上選手数の枠は1810名となり、東京大会から90名減る。マラソン及び10kmの一般参加型大規模レースも計画されている。
- パリオリンピックの参加要項は2022年3月のカウンシル会議で諮られる。

## 6. その他

- WA World Plan（2022年～2030年）の推進は喫緊の課題であり、エリア陸連、各国連盟と協力して、67のアクションプランを遂行する事が重要である。
- 記録操作の疑いがある事例が複数報告されているので、対応策を協議し、再発防止を徹底する。
- 筆者が委員長を務めるNationality Review Panelが報告を行い、これまでの経験値を基に、規定を更新する事で合意を得た。

# 2021年度 全国普及育成・指導者養成担当者会議 報告

指導者養成委員会委員長 山本浩

日時：2021年12月17日（金） 16：00～19：00  
場所：指導者養成委員会本部メンバー/日本陸連会議室 全国担当者/  
WEB会議（Zoom）

出席者：風間 明専務理事、山本 浩委員長、沼澤秀雄副委員長、桜井智野風  
コミッティーディレクター、森丘保典政策・プランニングディレクター、  
岸 政普及ディレクター、秋元惠美委員、舟橋昭太委員、森健一委員、  
磯貝美奈子指導者養成課長、田中悠士郎指導者養成課主事、米高奈史指  
導者養成課員、古田詩歩指導者養成課員（以上日本陸連事務局から参加）  
指導者養成委員、都道府県陸上競技協会指導者養成/普及育成担当者（以  
上各地からオンライン参加）

進行：指導者養成委員会幹事 森 健一

## 1. 開会

### 会議次第

2. 日本陸連 指導者養成に関して 陸連事務局 磯貝美奈子  
大学のスポーツ史の講義で学生に問いかけをしてみると、過去に体育の  
時間に指導者から時間を取って座学で教えてもらったことが深く印象に残  
っていると答えたものが複数いた。コミュニケーションのやりとりが、指  
導者をする子どもや選手のパフォーマンスの向上に密接な関係を持っている  
ことは、皆さんも体験しておられるだろう。日本陸上競技連盟（以下陸連）  
では、コミュニケーションのやりとりを大切にすることを旨としている。  
私たちがいろいろ伝えるだけでなく、皆さんの話を聞かせてもらうことによ  
って、この陸上競技の世界をさらなる高みに持ち上げたい。

いま私たち指導者養成に関わるメンバーが働きにしていることの一つに、  
2020年9月にスポーツ庁が発表した「学校の働き方改革を踏まえた部活動  
改革」がある。全国の陸上競技の指導に関わる皆様方の間では、すでに新  
たな動きに向けて舵を切られている向きもあると思う。環境はさまざま  
で条件も様々ではないことを考えると、今日のこの機会を捉えて、指導者  
養成委員会の活動を振り返り今後の考え方をお伝えすることはもとより、  
この先2023年から具体化する、公立中学校の週末部活動外部移行の話を柱  
に据えようと考えた。スポーツ庁でこの施策の中心的な仕事につかわれて  
いる、運動部活動改革専門官の田口雅紀さんにお越しいただいた。後ほど時  
間を取ってお話を伺いたい。

3. 2021年度事業報告 ディレクター 桜井智野風  
約1年半、活動が滞っていた。再開できることに喜びを感じている。

- (1) JAAF 公認コーチ（JSPO 公認陸上競技コーチ3）養成講習会  
2会場、年が明けて実施した。
- (2) JAAF 公認ジュニアコーチ（同 コーチ1）養成講習会  
これから開催される会場も含めて14会場で実施。共通科目はオンライ  
ンだが専門は都道府県陸協が主管し対面で行うことになっている。オン  
ラインと対面が輻輳する。わかりにくいところもあるがご理解願いたい。
- (3) JAAF 公認スタートコーチ（同スタートコーチ）養成講習会  
今年度は、パイロットコースとして2会場で行う。来年度は皆さん  
の都道府県で開催していただければありがたい。

ディレクター 岸 政智

- (4) U10/U13/U16指導者講習会兼みんな集まれ!!陸上  
陸上遊び/陸上運動/陸上の基本運動  
昨年、今年とコロナ禍での普及活動に関して苦労していただいた。  
みんな集まれ!!陸上として今年からスタートした。今年度からU-10を  
始め、さまざまなことを学ぶことができた。大分では小学校の特別授  
業としてU-10を実施できた。
- (5) “日清食品カップ”第37回全国小学生陸上競技交流大会及び都道府県大会  
昨年できなかった大会は、今年度2年ぶりに開催できたが、フレンド  
シップパーティーができなかったり、参加者を絞ったり。リレーが  
できなくて残念な結果になった。安全、安心の競技会として絞った結  
果である。来年度はウィルスの状況を見ながら柔軟にやりたい。全国  
大会当日は寺田明日香選手、山縣亮太選手、中村明彦選手、利藤野々  
花選手がゲストアスリートとして参加。寺田選手と中村選手には、後  
日行った指導者研修会にも録画出演として加わってもらった。  
今年度から都道府県大会の全記録を掲載してダウンロード可能な  
「My record」（マイレコード）を出している。自身の記録との戦いの  
要素がある陸上競技、自分の記録を残すことへの配慮でもある。「My  
record」に関しては12月20日に更新する予定。統一ルールに関して、  
コンパインド種目のリザルトデータ、修正を行った。

## 全国大会動画上映

### 4. 運動部活動改革/運動部活動の地域移行に関して

- (1) スポーツ庁の政策、方針、取り組みについて  
ゲスト：スポーツ庁 政策課 学校体育室 室長補佐（併） 運動部活動改  
革専門官 田口雅紀さん

「部活動改革（地域移行）にみる指導者養成」 聞き手：山本 浩  
山本：スポーツ庁では、2023年度から実施に移る中学の部活動改革（地域  
移行）に関して、すでに審議会（運動部活動の地域移行に関する検討会議）

を設けて、話し合いに入っている。早速田口専門官にご説明を願いたい。  
田口：部活動の現状と課題。現状、教育的な意義を有している。社会性、  
責任感、人間形成の場、だが改革しなければならない。年々部活動が減少、  
参加率も下がり続けている。中学校で1校あたり平均10の部活動が設置  
されている。少子化の影響によって、一つの学校で部活動が成立しにく  
くなっている地域が増えている。

教師の負担が大きい。休日に教師が学校関連の業務をした時間は平成  
18年で1時間33分、うち1時間6分が部活動関連。その後、平成28年  
には全体で3時間22分、うち部活動が2時間10分だから10年で休日の業務  
が倍増して、そのうちの三分の二が部活動だということになる。

スポーツ協会の資料で言えば、部活の競技経験の無を聞くと、運動  
部活動全体の指導者の3割が競技経験なし。教師にとってストレスになっ  
ているだろうし、生徒にとっても望ましいとは言えない。

平成30年、運動部活動のあり方に関する総合的なガイドラインを打ち  
出した。①適切な運営のための体制整備。②合理的かつ効率的、効果的  
な活動推進のための取り組み。③適切な休養日の設定。④生徒のニーズ  
を踏まえたスポーツ環境の整備。⑤学校単位で参加する大会等の見直し。  
教師の負担軽減のためにも、学校部活動を地域に移行していくことが勤  
められている。

平日1日、土日で1日休みましょう。各都道府県の現状では、ガイド  
ラインの部活動週660分がほとんど守られていない。減ってきているが、  
なおトータルで長時間に及んでいる。

平成29年、部活動外部指導員の制度化。この制度ができるまで、外部  
指導員は学校の職員ではないため、単独で指導、大会の引率などができな  
かった。その後、外部指導員に学校職員としての身分を与える為に部活動  
指導員を制度化。単独で部活動の顧問、指導、引率もできるようになった。

部活動外部指導員配置のための補助金、今年度12億円の予算。国、都  
道府県、市町村がそれぞれ三分の一ずつ負担する制度。全国で約1万人  
分の配置が可能な額。

「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について」。昨年（2020年）9  
月にスポーツ庁から通知。現状分析の上で施策を示す。休日に教師が部  
活動に携わる必要がない環境を構築すること。部活指導を希望する教師  
は、休日に指導のできる体制を整備すること。

そのために①休日の部活動の段階的な地域移行を進める。地域部活動  
推進事業。拠点校を選んで実践研究として成果の全国展開。②合理的で効  
率的な部活動の推進。複数校による部活動推進だったりICTの促進だつたり  
、また地方大会のあり方を考えること。

今年度新規事業として執行を進めている状況である。運営団体、地域に  
おける受け皿作りの確保。まず考慮するのは総合型地域スポーツクラブ。  
現在約3600のクラブが存在している。単純に言って全国区に1万校の中学  
校、部活動10万部。受け入れにはあまりにも数が少ない。すべてが体制  
も整っていない。受け皿作りが喫緊の課題。

来年度3.6億円を要求しているが、そこまではつかないにしてもそれなり  
の予算措置がされるはず。

課題も多い。施策は現場を知らない役人だけで考えていても進捗しない。  
外部の有識者の方々にお集まりいただき、議論を進めている。

部活動改革の取り組み事例。地域スポーツクラブが多いが、教育委員会  
も目立つ。コーディネーター役となった地域の指導者と連携してやってい  
るような例。具体的な事例では、東京の日野市では地元企業コニカミノル  
タの陸上部OBの方が部活動の顧問に代わって指導を行っている。そうした企  
業がどこにもあるというわけではないが、一つの好例。指導者等の人材確  
保は、重要なテーマと考えている。

### 代表質問

山本：少子化ではなく指導者の不足が、問題の背景となっているのか。専  
門的に教えた経験のない先生が相対的に増えているのではないのか。

田口：どちらも考えられる。

山本：週末の部活動の実施場所を選択する際には学校をベースに考えると  
されているが、中学校は総合運動公園ではないから、複数の競技・部活  
が同じ会場を希望しづぶかる可能性がある。

田口：学校開放の取り組みが進んでいる。先着順にするなどの対応が必要と  
なる。学校施設の管理が学校に残されるのか、自治体が持つべきではない  
か。その上で社会体育施設として融通がきくような形で運用することも必  
要でないかという議論も進んでいる。柔軟な学校施設活用を検討したい。

山本：総合型地域スポーツクラブに委託することと、部活がいくつもあるこ  
とを考えれば専門の指導者を一つのクラブに所属させることができるのか。

田口：総合型が念頭にあるのは、かつては総合型を一生懸命作ってきたことがあることも手伝っている。そこだけに頼るのではなく、クラブ、民間の事業者など複合的なやり方で受け皿を作りたい。

山本：民間の事業者の場合、経営の安定は必要。人数が減ってきたのでは持たないと値上げを要求するクラブがある場合、払えないからと活動できる子どもが減る可能性はないか。

田口：これまで教育でやってきたからには公平性、平等性は重要。地域に移行したからといって、経済的理由によってスポーツ活動ができなくなってしまう子どもが出てしまうのは大きな問題。何らかの財政支援制度を作っていかなければいけない。現在、有識者会議を行っているが、そこで取り上げて考えていきたい。

山本：文化活動とスポーツの考え方は同じなのか。

田口：考え方はまったく同じだが、文化部活動に関しては文化庁が担当。違いとしては、スポーツには受け皿がすでにある。文化活動については登録制度を作るところから始まっている。

### 登録制度

三宅 聡課長

#### 「部活動改革を踏まえた登録制度の改定検討について」

日本陸連は2017年ビジョンを掲げた。アスレティックファミリーの拡充を重要なテーマとして掲げている。2023年度からの新たな登録制度を考えて議論を進めている。陸上競技の世界で考え得る課題は、a競技会、b指導者、c運営主体、d参加者。競技会の役員には大勢の先生が関わってこられただけに、これがどうなるかは課題の一つ。活動のありようでは「習いごと型」「合同練習型」これは日常的にされているのではない。週末の合同練習会などがある。「形式だけ型」。5時までは「学校部活動」としてやる時間がきたらその後「地域の活動」としてやるようなやりかた。そして「自主練習型」もあるだろう。

大会に関して言えば、中体連の大会にはクラブの登録名では参加できない。現在、いわゆる「二重登録」が可能で、日本陸連主催大会では、出場という意味ではそれぞれ登録さえすれば出られる。どちらの所属名で出るのか、出したいのか、指導者のエゴでないかたちで解決できるようにしたい。

地域のチームを作る際に審判資格の保有者が必須となるような仕組み作りというアイデアもある。指導者の質の担保、団体の成立要件で指導者資格を含むようにするか。陸上競技の有資格者数、現在5000人あまり、チームは1万5000ぐらいある。この間の解離が大きい。指導者養成計画も合わせて検討が必要だろう。

安全について、部活動でなくなるとスポーツ振興センターの災害給付から外れることが考えられる。陸連登録に保険セットにしたらどうかというアイデアも出ている。金額の検討が前提か。

小学生登録は未定義になっているがアスレティックファミリーの拡充という意味で、ちゃんとファミリーになってもらおうと考えている。現状は、半分以上の県で独自の登録制度が始まっている。登録制度が普及のネックになるという意見があるのも承知している。プロジェクトの中では記録の管理とコミュニケーションの確保、お金を取る、取らないは別にして小学生も大事にしていきたい。

#### グループワークでディスカッション

参加者に16のグループに分かれてもらいそれぞれの意見を交換する。養成委員会のメンバーはそれぞれ、各グループの中に適宜入り、意見を聞かせてもらう。時間は20分。

#### 都道府県質問

山形/鳥中：中体連と陸連の枠組みの中で、なにか変更される部分はあるのか。

田口：部活動改革において、大会の在り方が大きく関わる。中体連と調整を進めている。地域移行が進んだら、全中の大会に対して様々な形態のチームからの出場が可能になればよいが、学校単位としての中体連の存在意義が大きいので、ハードルは高い。NFやPFに協力を得て、現状の大会以外で子供たちの成果発表の場を別の形で設ける可能性もある。地方大会で県の中体連、県の競技団体で協力できるのであればオープン大会をやってもらいたい。中央競技団体における大会の在り方がポイント。

委員/舟橋：平日も地域に移行するのはいつごろか。

田口：休日は、改革の第一歩としての方針という認識。やがては平日も移行していくことも視野に入れているが、休日だけでも移行するには大変な労力を必要とする。現在はいつまでに休日の完全移行ができるのかという先の見通しが立たないで終わりを決めていない。それ故平日の部活動をどうするか決めるのは相当先の話になる可能性がある。

岡山/池田：中学をうまくやっていたところとすれば、高校との連携がカギになるのではないかと。高校には専門の先生がいるので、各高校とうまく連携して指導者を中学で活用すれば、良い方向に進むのではないかと。例えば中学の経験のない指導者が学ぶこともできるから意味がある。ただし、大きい学校になると難しい可能性がある。小さい学校の例が示されたものの、大きい学校だとどうなるのか、考えておく必要がある。

田口：高校を受け皿として考えるというのはわれわれの思考にもなかった。教員の働き方改革というのがスタートになっているので、高校の指導者の負担が増える可能性もあるが、高校を受け皿として考えることは、新しいアイデアで傾聴に値する。

#### 5. 都道府県担当者グループディスカッション

(進行) 森 健一

「運動部活動改革に向けた、地域の取り組み・事例・課題についての意見交換」

グループ3 (山梨/名取)：外部指導者に学校の中に入ってもらい、地域の人材活用をしていこう。モデル校として指定された学校が県内にある。陸上専門部のOBに部活動に入ってもらいながら、手伝い、指導してもらい専門的な知識を部活動の顧問に代わってやってもらっている。テニスなど他の部活もある。山梨は小さい県、県全体での強化練習会を小瀬の陸上競技場に全県で定期的に集まりながら、可能性のある子どもたちを育成していく事業がある。

グループ6 (北海道/井上)：審判員について、公認審判制度があるので、資格を持つ人が競技会で重要な役割をすることになっているが、高齢化が進んでいる。部活動に関して言えば、専門の指導者がおらず、素人が指導を行っていることがある。審判資格を持った人間が専門的な運営、記録の入力など補助的な部分は保護者や高校生に手伝ってもらって運営している。競技会をいかに少ない人数で運営するか努力し、iPadを使うなどいかに大会運営を効率的に行うかを検討しているが、札幌でも難しい状況だ。

#### 臨時議題 風間専務理事あいきつ

今後の大会のあり方について。小学生の大会で、コンバインドという仕組みを作った。中学生、高校生はU-16、U-18、大学生を含めたU-20という区分けをし、U-16とU-18は一つの大会で、チャンピオンシップを目指すのではなくタレント性を見極める大会にしている。「選手権」としていい。「選手権」と付けられるのはU-20と日本選手権/シニアの大会。今年から両者は同時開催。オリンピックを目指す世代と一緒に戦わせている。互いに刺激をしいながら、レベルアップを図っていききたい。強化を大会の中に持ち込む。普及だけでなく強化も同時に養える。

競技生活を卒業したトップ選手が、さまざまな大会を工夫して開いてくれている。800mの横田真人氏、マラソンの大迫傑氏。今まで選手だった人たちが、支える側に回ってきている。大変にありがたいことだ。選手がこれからも支える立場に回ってくれることをありがたいと思っている。

#### 6. 指導者養成、資格制度について

指導者養成委員会 森 健一

##### 1. 指導者養成指針

昨年度『指導者養成指針』を策定した。その中で「すべての指導者にコーチ資格を」と謳っている。部活動指導者のバックグラウンドについて2020年度に実態調査を行っている。陸上競技に関しても調査をしている。本連盟ホームページをご覧ください。現在、資格を持つ指導者は約5000人。今後、この数字を増やしていきたい。皆さんの協力が不可欠。

##### 2. 公認スポーツ指導者資格概要

「公認スタートコーチ」制度は今年から始まっている。これからコーチとしてスタートする人、他のスポーツから陸上競技を初めて指導する人などが対象。コーチの初級というところで新たに設けられた資格。今年度は2会場。次年度は20会場以上を計画している。

##### 3. エデュケーターの養成について

資格制度の整備にもなるエデュケーター（コーチ養成者）。スタートコーチ講習で講師を担当する人。詳細については、3月に研修会を予定。

#### 7. 2022年度事業計画

陸連事務局 田中悠士郎

(1) JAAF公認コーチ (JSPO公認陸上競技コーチ3) 養成講習会

(2) JAAF公認ジュニアコーチ (同コーチ1) 養成講習会

(3) JAAF公認スタートコーチ (スタートコーチ) 養成講習会

(4) 公認コーチ受講者推薦、指導者養成講習会 (ジュニアコーチ、スタートコーチ) 開催調査

(5) “日清食品カップ”小学生陸上競技交流大会

#### 8. その他連絡事項

陸連事務局 田中悠士郎

(1) 資格更新研修、JSPO公認指導者管理システム管理者登録

(2) その他事業について

#### 都道府県からの質問

鹿児島/太田：1月14日の会議はオンライン開催か。

田中：オンラインでの開催予定。別途案内する。

大阪/島津：2019年度までU-16ブロック研修会を行っていたが、2020年から中止となった。代替事業はないのか。

磯貝：指導者に向けた事業を広く検討している。まったく同じ内容ではないが、スタートコーチもその一環としてお考えいただきたい。

京都/三上：公認コーチの受講条件について、ジュニアコーチを持っていないと必要になっていくが、これまでは「原則」としていたのが今年度はない。今年度も猶予期間にできないのか。

磯貝：3年間の猶予期間を設けていた。昨年、講習会ではできなかったが、この2年間の「原則」は移行期間として考えてきた。次年度はジュニアコーチ保有が条件となる。JSPOも同じ考え。

宮崎/田爪：スタートコーチを受けないと、ジュニアコーチは受けられないのか。最初からジュニアコーチでも良いのか。

田中：最初からジュニアコーチを受けられる。

岡山/池田：スタートコーチのメリットについて聞きたい。

沼澤：全ての指導者に資格を持ってほしい考えの中、養成計画を立てている。スタートコーチの割合を年々挙げていく予定で、陸連の養成資格の大きな割合を縮めることとなる。2025年に15000人に到達するよう計画している。スタートコーチは重要な資格であることを理解の上、協力していただきたい。

#### 9. おわりに (閉会)

副委員長 沼澤 秀雄

# 施設用器具委員会－2021年度全国区域技術役員会議、 検定員・技術役員合同実技研修 開催報告

施設用器具委員会では、検定技術の向上を図るため全国検定員会議と全国区域技術役員会議を隔年で開催している。2021年度は全国区域技術役員会議を実施した。新型コロナウイルス感染状況への対応ため会議は、Web会議システムを用いて開催し、各都道府県陸協より推薦された95名が出席した。実技研修は、10ブロックに分散して開催した検定員・技術役員合同実技研修を兼ねて実施した。リモート会議及び実技研修を修了した者が2022年度以降の区域技術役員として活動していく。以下はそのリモート会議と検定員・技術役員合同実技研修の概要である。

## ■全国区域技術役員会議

日時：2021年11月20日（土）～21日（日）

場所：Web会議システムを用いてリモート開催

出席者：全国区域技術役員推薦者95名、施設用器具委員会11名、事務局員2名

会議概要：

第1日目（11月20日）事前研修 新規13名、2期目12名、希望者9名

1. 検定制度と技術役員の役割 高木委員長  
制度の成り立ち、検定の種類、競技場の種別、技術役員の役割等について、ルールブック、検定要項の内容を交えて説明。
2. グラウンドの基礎知識と1週の距離 米岡幹事  
陸上競技場の基礎知識、1週の距離の求め方、検定に用いる巻尺の特性等についての事前課題を検定要項の内容を交えて説明。

第2日目（11月21日）推薦者95名 司会 福島副委員長

1. 検定制度と技術役員の心得 高木委員長
  - ① 技術役員の役割、心得についての説明。
  - ② 検定の流れについての説明。
  - ③ 緊急時宣言時の検定の注意事項についての説明。
  - ④ 競技会での審判についてのお願い。
2. 陸上競技場の現状と検定の注意事項 福島副委員長
  - ① 陸上競技場・長距離競走路の現状  
2021年現在492競技場、長距離競走路235コース、競走路10コース。
  - ② 公認日、保留・条件付、公認料、派遣費用等の検定実務の注意事項の説明。
  - ③ 様式の変更、延期等の諸届の注意事項の説明。
3. 陸上競技場検定報告書の適正な記入方法 山口幹事
  - ① 報告書を記入する上での注意事項の説明。
  - ② 検定の審査をしたときの指摘事項の説明。
4. 陸上競技場検定の基礎知識 米岡幹事

A班（新規・2期目）

① グラウンドの基礎知識と1週の距離・4種の計算テスト  
事前研修の続きと例題に沿って計算に取り組んだ。

② 基本的な計算テストの回答と解説。

B班（3期目以降）

塚野委員

① 4種競技場の距離計算の課題の回答と解説  
簡便法を用いて例題の計算を実施した。

② 再度ポイントごとの計算実例と注意事項の説明

5. 規則変更に対する対応 高木委員長

- ① 施設用器具委員会関係の2021年度規則改正の説明。
- ② 施設用器具委員会関係の既に改正された規則の対応と来年度の規則改正予定について説明。

6. オリンピック・パラリンピックの実施報告

① オリンピック・パラリンピックの全般について 高木委員長

② ハードルの設置等について 米岡幹事

③ 用器具検査について 山口幹事

④ 競歩・マラソン 福島副委員長

⑤ 審判員として参加して 千葉・大竹技術役員

7. 質疑応答

8. 修了証授与

## ■検定員・技術役員合同実技研修

1. 日時/会場 下記一覧表参照。全国10会場で開催。

2. 出席者 検定員、区域技術役員134名、本部検定員、事務局員

3. 研修内容

・全国会議がリモート開催になり、全国検定員会議と全国区域技術役員会議で行っていた実技研修を隔年開催として、10ブロックで検定員、区域技術役員が合同で実技研修を行った。

・各会場の人数に応じて1班～3班編成とし、検定員を班長とした。

・距離計測：競技場の礎石のかさ上げを行い、読みとゼロ側に分かれて直線、曲走路、レーン幅の計測をした。

・角度計測：トランシットで曲走路部分の標識タイ尔、マーキングの計測をした。

・レベル計測：オートレベルにより高さの計測をした。

・施設計測：水濠、走幅跳・三段跳、棒高跳、サークル、囲いの計測箇所の確認をした。

・舗装厚計測：舗装の厚みの計測方法を確認した。

・報告書記入の注意事項、やり検査の方法を確認した。

・全員が各計測箇所の計測実技を行った。実際の検定と同様の計測ができ、有意義な研修が実施できた。

4. 資料 報告書1式、スタッフ拡大図、やり寸法図、角度表携帯品…検定要項、標識タイ尔計算書、用器具規格、計算機、ルールブック

2021年度検定員技術役員合同実技研修会 会場一覧

No.	ブロック	実施日	会場	会場競技場名	出席者数	委員会派遣者	陸連事務局
1	北海道	11月13日(土)～14日(日)	北海道	札幌市円山競技場	5	高木	—
2	東北	11月27日(土)	岩手県	北上陸上補助競技場	15	福島	吉澤
3	関東	12月11日(土)	埼玉県	熊谷スポーツ文化公園陸上競技場	26	高木、福島	吉澤
4	北信越	11月13日(土)	富山県	魚津市桃山(運)桃山陸上競技場	13	福島	榎田
5	東海	12月25日(土)	愛知県	春日井市朝宮公園陸上競技場	9	菊込、米岡	榎田
6	近畿	12月18日(土)	大阪府	ヤンマースタジアム長居	20	大島、山口	榎田
7	中国	11月27日(土)	広島県	みよし運動公園陸上競技場	16	高木	榎田
8	四国	11月3日(水・祝)	香川県	香川県立丸亀競技場主競技場	8	高木	榎田
9	九州	12月11日(土)	熊本県	熊本市水前寺競技場	19	大島、山口	榎田
10	沖縄	1月8日(土)	沖縄県	糸満市西崎陸上競技場	3	高木、米岡	榎田
計					134		



# 大会観戦ガイド

## 第105回日本陸上競技選手権大会・20km競歩 兼 オレゴン2022世界陸上競技選手権大会 日本代表選手選考競技会 兼 杭州2022アジア競技大会 日本代表選手選考競技会 第33回 U20 選抜競歩大会

- ▼期日：2022年2月20日（日）
- ▼コース：六甲アイランド甲南大学西側20kmコース（日本陸連公認コース）
- ▼種目・スタート時刻／制限時刻：
  - （1）日本選手権男子20km 競歩 8時50分／10時22分
  - （2）日本選手権女子20km 競歩 10時40分／12時29分
  - （3）U20選抜男子10km 競歩 12時45分／13時34分
  - （4）U20選抜女子5km 競歩 13時50分／14時16分
- ▼問合せ先：公益財団法人日本陸上競技連盟事務局  
〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階  
TEL：050-1746-8410（土・日祝日を除く10：00～18：00）
- ▼大会ページ：  
<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1600/>

## 第105回日本陸上競技選手権大会クロスカントリー競走 第37回U20日本陸上競技選手権大会クロスカントリー競走

- ▼期日：2022年2月26日（土）
- ▼コース：国営海の中道海浜公園クロスカントリーコース（福岡市東区西戸崎18-25）
- ▼種目・スタート時刻：① U20男子8km 13：50（U20日本選手権種目）② U20女子6km 14：30（U20日本選手権種目）③ シニア女子8km 15：00（日本選手権種目）④ シニア男子10km 15：40（日本選手権種目）
- ▼問合せ先：【福岡クロカン事務局】〒810-0004 福岡市中央区渡辺通1-12-9 フジビル3F 福岡クロカン事務局  
TEL：092（738）2180 FAX：092（738）2243
- ▼大会ページ：  
<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1601/>

## 第10回大阪マラソン・第77回びわ湖毎日マラソン統合大会 兼 ジャパンマラソンチャンピオンシップシリーズ 兼 オレゴン2022世界陸上競技選手権大会マラソン日本代表選手選考競技会 兼 杭州2022アジア競技大会マラソン日本代表選手選考競技会 兼 マラソングランドチャンピオンシップチャレンジ

- ▼期日：2022年2月27日（日）
- ▼コース：大阪府庁前をスタートし、大阪城公園内をフィニッシュとする大阪マラソンコース（日本陸上競技連盟、WA／AIMS公認コース）
- ▼種目・スタート時刻：
  - 9：05 / 車いすマラソンスタート
  - 9：15 / マラソン第1ウェーブスタート
  - 9：25 / マラソン第2ウェーブスタート
  - 9：40 / マラソン第3ウェーブスタート
- ▼問合せ先：<https://www.osaka-marathon.com/2022/faq/>

- ▼大会ページ：  
<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1633/>

## 第105回日本陸上競技選手権大会・室内競技 2022 日本室内陸上競技大阪大会

- ▼期日：2022年3月12日（土）・13日（日）
- ▼会場：大阪城ホール（直線60m 8レーン）
- ▼競技種目：〈12日（土）予定〉日本選手権 男60mH（1067mm）女子60mH（838mm・8.5m）棒高跳 三段跳 U20の部 男子60mH（991mm）女子60mH（838mm・8.5m）棒高跳 三段跳 U18の部 男子60m 60mH（991mm）棒高跳 走幅跳 女子60m 60mH（762mm・8.5m）走幅跳 U16の部 男子60m 60mH（914mm）走幅跳 女子60m 60mH（762mm・8.0m）走幅跳 〈13日（日）予定〉日本選手権 男子60m 走高跳 棒高跳 走幅跳 三段跳 女子60m 走高跳 走幅跳 U20の部 男子60m 棒高跳 走幅跳 三段跳 女子60m 走幅跳 小学生の部 男子60m（オープン競技5・6年生共通）女子60m（オープン競技5・6年生共通）
- ▼問合せ先：公益財団法人日本陸上競技連盟 事務局 室内陸上担当 TEL：050-1746-8410 お問い合わせフォーム：<https://forms.gle/nFZuscqEq8xi4JB37>（小学生の部については、大阪小陸研（osakashoriku@gmail.com）へメールで問い合わせのこと）
- ▼大会ページ：  
<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1609/>

## 名古屋ウィメンズマラソン2022 兼 ジャパンマラソンチャンピオンシップシリーズ 兼 オレゴン2022世界陸上競技選手権大会マラソン日本代表選手選考競技会 兼 杭州2022アジア競技大会マラソン日本代表選手選考競技会 兼 マラソングランドチャンピオンシップチャレンジ

- ▼期日：2022年3月13日（日）
- ▼コース：バンテリンドーム ナゴヤ発着（日本陸上競技連盟、WA/AIMS 公認コース）
- ▼種目・スタート時刻：女子マラソン 9：10スタート
- ▼問合せ先：マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知ランナー コールセンター TEL：0570-550661
- ▼大会ページ：  
<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1608/>



写真：フォート・キシモト

## 事務局からのお知らせ

### ◆◆ロードレース開催についてのガイドンス 一部改訂のお知らせ◆◆

新型コロナウイルスが感染の拡大と収束を繰り返し、オミクロン株がまん延してきた現在、大会主催者及び選手・関係者の皆様に感染症対策について改めて注意し、感染拡大防止に協力をお願いしたく「ロードレース開催についてのガイドンス」の改訂を検討しました。

さまざまな制限下における大会開催について、開催地の感染状況に応じて感染症対策を検討できる内容にガイドンスを改訂いたしました。

▼詳細はこちら

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/15765/>

▼改訂版資料はこちら

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/15766/>

### ◆◆国立競技場に再びトップアスリートが集結！

#### セイコーゴールデングランプリ陸上2022東京 開催日程・会場について◆◆

2022年に開催するゴールデングランプリ陸上の開催日程・会場を決定いたしましたので、お知らせいたします。本大会は、東京2020オリンピック競技大会開催後、国立競技場で開催する初の国際大会となり、「ワールドアスレティクスコンチネンタルツアーゴールド」として開催いたします。

▼詳細はこちら

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/15774/>



### ◆◆第2回ライフスキルトレーニング レポート&受講生コメント

#### オリンピックメダリストに共通する特徴と成功するための行動◆◆

日本陸連は、2020年度から株式会社東京海上日動キャリアサービスの支援を得て、大学生アスリートを対象に「ライフスキルトレーニングプログラム」を展開していますが、昨年12月からは第2期生として選抜された10名に向けたプログラムもスタート。1月15日に、その2回目となる全体講義が行われました。

▼詳細はこちら

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/15782/>



### ◆◆第29回世界競歩チーム選手権

#### 東京五輪銀メダリスト池田・銅メダリスト山西など7名が日本代表に決定◆◆

本年3月4日（金）から5日（土）までマスカット（オマーン）で開催される「第29回世界競歩チーム選手権」に派遣する日本代表選手を決定しましたことをお知らせします。

▼詳細はこちら

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/15777/>



## 陸連時報編集委員

### ◇編集委員

尾縣 貢（陸連会長）  
黄倉 寿雄（陸連副会長）  
瀬古 利彦（陸連副会長）  
有森 裕子（陸連副会長）  
風間 明（陸連専務理事）  
山崎 一彦（陸連強化委員長）  
鈴木 英穂（陸連事務局長）  
牧野 豊（陸上競技マガジン編集長）

### ◇時報編集室責任者

石井 朗生  
◇時報編集担当  
日本陸連 広報課

## 陸連時報編集室

〒160-0013  
東京都新宿区霞ヶ丘町4-2  
JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階  
日本陸上競技連盟内  
TEL：050-1746-8410  
FAX：050-3588-1869